

参加したインターンシップについて教えてください

学部生のときに就職活動をしてきた経験から、インターンシップは絶対参加しようと考えていました。コンサルを中心に31社にエントリーし、戦略系やIT系コンサルディングファーム4社のサマーインターンシップに参加しました。いずれも5日間程度のプログラムですが、内容が濃く、成果発表を間に合わせるために徹夜をしたり、土日を充てたりすることもありましたね。8月から9月にかけては本当に忙しく、家に帰ってからも課題のことばかり考えていました(笑)。

プログラムの流れは、「特定企業の業績を改善するための施策を考える」といった課題が与えられ、リサーチからプレゼンまで行うというものが多かったです。経済情報データベースや社内図書館、現地調査などを活用し、「どんな情報をどのように集めるか」から自分で考え、リサーチをもとに改善策を検討・発表します。発表内容に対して、現役コンサルタントから容赦ないフィードバックを



受けたのは、いい経験になりました(笑)。

参加してよかったのはどんな点ですか？

会社ごとの社風や具体的な業務内容について理解が深まった点です。情報収集・リサーチの手法については研究室で行っていたものと近く、理系としての経験が活かせると感じました。

社風については、同じコンサルでも体育会系で上下関係が厳しい会社がある一方で、気さくな社員が多いフランクな風土のところもあります。そういった社風は実際に働いてみないとなかなか分からないと思いました。インターン

先輩体験談

case

01

実際の職場に入り込むことで、意識していなかった企業選びの軸が見つかる

早稲田大学大学院
創造理工学研究所

経営システム工学専攻 修士2年

吉田 大地さん

アーサー・D・リトル(ジャパン) 内々定

シップに参加するまで、就職先を選ぶ軸として、「社風」というものをまったく意識してなかったのですが、複数の会社を見るうちに、「こんな社風の会社で働きたい」と思うようになりました。

その他では、社員の方とつながりできたのも大きかったですね。インターンシップが終わってから定期的に飲み会に誘ってくれたり、就職活動の相談に乗ってくれたりしました。

インターンシップの情報収集や選考対策はどのように進めましたか？

本格的に情報収集を始めたのは5月頃で、コンサル系のインターンシップ情報が掲載されている情報サイトを良く見ていました。対策をしたのはエントリーシートやグループディスカッションですね。特にコンサルの選考は特色があるので、フェルミ推定やケーススタディなどに対応できるよう準備し、友人と集まってグループディスカッションの練習やエントリーシートの対策をしました。

インターンシップに参加して就職活動に役立ったことは？

一番は志望動機がより明確になったということです。インターンシップに参加するまで、コンサル業界に対する志望動機はイメージできていたのですが、個別の企業までには落としこめていなくて、正直に言うと「コンサルならどこもそんなに変わらないだろう」と思っていました。それが、インターンシップを通じて社風の違いを実感し、企業選びの際に重視すべき軸が明確になりました。

これからインターンシップや就職活動を控えている理系学生へのアドバイスをお願いします

志望業界の会社がサマーインターンシップを実施しているなら積極的に参加してください。企業によっては採用直結型のインターンシップもありますし、そうでないものでも志望動機が明確になるなど得るものは多いはず。スケジュールが許す限り、いろんな企業のインターンシップに参加してみてください。

参加したインターンシップについて教えてください

サマーインターンシップは外資系証券会社を中心に6社エントリーし、投資銀行2社のプログラムに参加しました。いずれも2〜3日のプログラムで、最初に各部門の部長クラスの方が出てきて業務内容を説明し、その後グループワークや職場見学をするというのが大まかな流れです。

グループワークの内容は、「外為のトレードをシミュレーションして自分のポジションの妥当性などをプレゼンする」というものや、「今日の朝刊からマーケットにインパクトを与えると思われるニュースをピックアップして5分でプレゼンする」や「海で漂流する際に必要な道具を20個のうちから10個を選ぶ」といった内容で、ロジカルな考え方はもとより自分の意見をチームの仲間や社員に簡潔に伝える力が求められました。

参加してよかったのはどんな点ですか？

会社や仕事に対する理解を深められたというのはもちろんですが、

個人的には社員の方に設けていただいたディナーの場で、ざつぱらんに話ができたことですね。食事しながらプライベートな話題ができたので、社員の方の人柄や本音を垣間見ることができました。ディナーはノリのいい社員の方が多く、楽しかったですね（笑）。「外資系証券会社」というと先入観でのいろんなイメージがあると思うのですが、こういった場を通じて、実際の働き方やプライベートなど生の声を聞くことができたのは大きな価値があると思いました。

インターンシップの情報収集や選考対策はどのように進めましたか？

昨年の3月頃、外資金融やコン



インターン

case

02

WEBだけでは分からない、企業カルチャーを実感できる貴重な機会

東京大学工学部

システム創成学科

知能社会システム(PSI)コース 学部4年

伊藤 薫さん

UBS証券 株式会社本部 内々定

サルティングファームに内定した先輩方から就職活動の話聞きました。その中で「インターンシップは受けたほうがいい」とアドバイスを受けたので、先輩が参加した企業のインターンシップ情報をWEBでピックアップしました。

選考対策でこだわったのは、対策本やセミナーなどに頼らず、自分の力だけで通過しようとしたこと。そのほうがかっこいいですし（笑）、自分自身で課題を改善していかないと自分の力にならないと考えました。特にサマーインターンシップは本選考でもないし、一番までに時間もある。だから自分が一番成長できるやり方にこだわろうと思いました。

インターンシップに参加して就職活動に役立ったことは？

インターンシップに参加する前は、「WEBを見ただけでは分からない企業の情報を知りたい」と漠然と考えていましたが、いま振り返ってみるとそれは各社のカルチャーでした。業界を知るといって目的であれば、インターンシップは業界ごとに一社参加すれば十分なのですが、各社の文化や風土を

知りたいのであれば、同業界で複数のインターンシップに参加すべきだと思います。私は「外資系証券会社の仕事はどこに行っても厳しいのは間違いない、それなら楽しく働ける環境でやりたい」と思い、最終的に自分の価値観と最も近いカルチャーを有する企業への入社を決めました。

そのほかでは、エントリーシートを早い段階から書いて経験を積めたことや、社会人と話す機会を多く持てたのが就職活動においてアドバンテージになりました。特に、バックグラウンドが大きく違うマネージャークラスの方とコミュニケーションをとるのはスキルが必要だと実感し、ロジカルかつわかり易く話せるよう意識するようになりました。

これからインターンシップや就職活動を控えている理系学生へのアドバイスをお願いします

夏休みにこれといった予定がないのであれば、インターンシップへの参加を強くお勧めします。就職活動を控えたこの夏、何をすることが自分の人生にとってベストなのかじっくり考えてみてください。